

令和 8 年度 第 1 回多摩市一般介護予防事業評価委員会 《要点録》

日 時：令和 8 年 5 月 22 日（金）午後 1 時 00 分～3 時 00 分

会 場：多摩市役所 第二庁舎会議室

出席者：7 名

欠席者：1 名

傍聴者：なし

1 開会

- ・ 高齢支援課長挨拶
- ・ 評価委員会実施体制について報告 【資料 1】

2 報告

（1）令和 7 年度介護予防・日常生活支援総合事業実績及び令和 8 年度目標

（資料 2、3 に沿って説明）

（意見）資料 2 について、達成状況が A なのに令和 8 年度目標値がそのまま、または令和 7 年度より下がっているのは理由があるか。

（事務局）一定の水準を満たせば良いという視点で掲げているものもある。想定される参加人数については、明確な根拠、人数設定が十分検討出来ていない部分があるため、横ばいになっている。計画と合わせて目標を明確に定め、今後の評価委員会で説明できるようにしていく。

（意見）若干参加人数が少なくなっているところがある。コロナ後の影響もあるかもしれないので、その可能性についても確認してほしい。

（意見）アンケートについて、問 13 だけ選択肢が十になった理由や意図は何か。

（事務局）問 13 は、ニーズ調査に合わせている。上位層、中間層、低層と分けた評価を予定している。幸福度が高く状態も良好、運動の効果が出ている層は、潜在的な担い手になる可能性があると考えている。

（意見）事業ごとに確認すべき評価は事業別にアンケートでアウトカムの指標をとっていくのか。

（事務局）対象者像が事業によって違う。評価指標も少しずつ異なるため、アンケートの最後の一問で確認する予定。

（2）令和 7 年度 TAMA フレイル予防プロジェクト実施報告及び令和 8 年度予定

（資料 4－①②③に沿って説明）

（意見）TFPP から他の事業への参加状況の把握はどのようにしているか。

（事務局）2 回目以降の参加者はアンケートで変化を確認している。地域介護予防教室への接続については登録用紙で把握している。他の事業への接続は把握できていないが、行動変容につながることが目的な事業であるため、何等かの形で把握出来るようにしていきたい。

（3）多摩市介護予防応援ガイドについて【資料：別冊 応援ガイド①②③】

（意見） 今後はここまで集まったデータをどう活用していくか。参加者の要介護データと連携すれば、この項目にチェックが付くと何倍要介護になりやすいという計算が出来る。それ

をハザード比にし、年代別に平均を出し、年齢に変換して多摩版健康年齢を作り、自分の状態を測れると良いのではないか。

(4) 高齢者の保健事業と介護予防の一体的実施事業の取り組みについて（資料5に沿って説明）

(意見) ポピュレーションアプローチからハイリスクアプローチへ、今後他のサービスにつなげることは考えているか。

(事務局) 参加勧奨通知からTFPPに参加した方に対して、保健指導の呼びかけを行い事業から事業への接続を行っている。

(5) 健康づくり推進事業について（資料6に沿って説明）

(意見) 前回夏期フレイルについて話題になったが、屋内等涼しい場所で事業実施は出来ないか。

(事務局) 主要3駅近隣の室内で、何か出来ないか検討している段階である。

(意見) 推進員の早期離職については、関わる人が減少しているということか。

(事務局) 参加できない申し訳なさから辞めてしまう方が多いが、参加出来ない時期が過ぎたらまた活躍できるよう、休務制度を作った。

(意見) ウォーキングポールの使用は、歩行に自信がない人の利用が増える想定での変更か。

(事務局) ポールを使うことで地域に出ることが怖くなくなったという意見があった。ポールの使用が全体に広がれば、それをきっかけに地域に出られる人が居ると考えている。

3 協議

第10期高齢者福祉計画・介護保険事業計画に向けた協議（資料7、参考資料に沿って説明）

(意見) 事業を知っている人は増えているのに、参加数には反映されていない。認識はあっても行動になっていない点について、どのように考えているか。

(事務局) 周知、参加しやすい工夫を考え、事業実施につなげていきたい。

(意見) 参加していない理由にある「人とつきあいたくない」「体力に自信がない」という市民に、何か刺さるものがあると参加につながるのではないか。

(意見) たま広報を有効活用し事業をさらにPRしてはどうか。健康寿命、介護認定率の低さが1位ということを誇るべき。

(意見) 困りごとを相談できる人について「別居の子」「友人」の割合が高い。相談できる人に対して介護予防の情報提供やアプローチが出来ると早期に対応できるのではないか。

(意見) 家族がいても迷惑かけたくない、疎遠という方もいる。ACP等を通じて対応をしていかなければと感じている。

(事務局) 16. 幸福度について、どのように評価していくべきか意見がほしい。

(意見) 十点満点のうち割合を累積し、四分位で25%ずつにわけ、上位25%を目標にするのが妥当ではないか。

4 その他

・次回の開催について

令和8年度第2回開催については、8月25日（火）13時からを予定

以 上